

邪馬台国からヤマト国へ（概要版）

千 城 央

1. 狗奴国に敗れた邪馬台国

- ① 飛鳥時代の争乱を参考にすれば、戦いに駆り出されたのは政権を支える豪族が雇用していた武人と所有していた工房の工人即ち奴婢である。
- ② 戦闘では大陸から伝わった鉄製武器が多用され、犠牲者の多くは素人兵士の工人であったから、国が敗れたことにより工房が立ち行かなくなった。
- ③ 狗奴国勢は勝利に乗じて近江に工房を作り、工人をこの地に移住させた。
- ④ そのため敗戦後の邪馬台国は男王擁立でもめ、再び争乱が起きて犠牲者がさらに増えた。

2. 三世紀の遺跡からみた狗奴国勢の攻勢

- ① 奴国（福岡県福岡市・春日市）の鉄鍛冶師を稲部遺跡群（滋賀県彦根市）に移住させ、大規模な鉄器工房を設置
- ② 出雲の玉作師を林・藤島遺跡（福井県福井市）に移住させ、大規模な玉作工房を設置
- ③ 狗奴国勢の主力で和邇^{わに}氏が指揮する吉備・山陰の同盟軍が、崇禪寺遺跡（大阪市東淀川区）に砦を築き、淀川・木津川の水運を確保して奈良盆地北東部を支配
- ④ 河内における外来系土器の変遷
 - ㊶ 概ね前2世紀～前1世紀は、紀伊・近江系が多い
 - ㊷ 概ね前1世紀末葉～1世紀は、中部瀬戸内系が多い
 - ㊸ 概ね2世紀は、近江系が多い
 - ㊹ 概ね3世紀前半は、吉備系が多い
 - ㊺ 概ね3世紀後半～4世紀初頭は、東海・山陰系が多い

⑤ 纏向遺跡（奈良県桜井市）の特殊性

① 魏の帯方郡から派遣された張政は、敗れた邪馬台国連合と勝った狗奴国連合の調停を行い、連合の統一と中心国をヤマト国に置くことで合意し、都となる纏向遺跡の建設に入った。

② 張政はその見返りとして、安定した鉄資材の供給と新都建設に新技術を持つ鉄鍛冶師の派遣を約束した。

③ ヤマト王権の出仕要請に応じた地方豪族が、古墳の築造に必要な山人^{やまと}を交代制で派遣し、彼らは故郷に戻って纏向形前方後円墳を築造した。

3. 四世紀の遺跡からみた狗奴国勢による邪馬台国進出

① 安土瓢箪山古墳（滋賀県近江八幡市）

双鳳文鏡を出土した四世紀中葉の前方後円墳（全長 134m）で、狗奴国^ひ卑弥弓呼^{みひこ}男王の後継者とみられ、狗奴国から移住し邪馬台国王となったのであろう。

② 雪野山古墳（滋賀県東近江市・近江八幡市・竜王町の境界）

三角縁神獣鏡三面・東海系壺を出土した四世紀後半の前方後円墳（全長 70m）で、被葬者は市場のあった石田遺跡・中沢斗西遺跡^{とにし}（滋賀県東近江市）を支配者した狗奴国系首長とみえる。

③ 和邇大塚山古墳（滋賀県大津市）

四世紀後半の前方後円墳（全長 72m）で、近くに和爾川があって和邇氏の一族とされる小野妹子がこの地の出身であることから、出雲系海人族の和邇氏系首長とみえる。